

平成 29 年度教育課程研究指定校事業公募課題（詳細）

公募課題 1 幼稚園教育に係る研究課題

幼稚園教育要領の趣旨等の実現に向けた評価方法の工夫、及び評価に基づいた指導内容や指導方法の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2 年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 幼稚園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成という循環の中で行われるものである。
 - 保育における反省や評価は、指導の過程の全体に対して行われるもので、幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、幼児理解に基づき、幼稚園教育要領の趣旨等の実現に向けた評価方法の工夫、及び評価に基づいた指導内容や指導方法の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各幼稚園における指導改善の参考に資するものである。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には、応募した幼稚園の課題等に応じて実践研究に取り組むこととする。
 - 評価方法については、幼稚園教育要領の趣旨等の実現に係る幼児の発達の理解とその指導に生きる評価となるよう指標等の工夫を図ることとする。
 - 平成 28 年度に研究指定校として委嘱されている幼稚園が、平成 28 年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成 29 年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

公募課題2 各教科等に係る研究課題

【小学校】

学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

◆ 研究期間：2年間

◆ 実践研究の背景

- 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による児童の確実な理解、能力の定着が求められている。
- また、学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。

◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、児童の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。

◆ 留意点

- 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
- 平成28年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成28年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成29年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

| | |
|----|---|
| 国語 | ◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること |
| | <p>①教育課程全体に係る課題（教育課程調査官担当）</p> <p>○下記の(ア)～(イ)のいずれか一つ又は両方に取り組むものとする</p> <p>(ア)言語活動の充実を図った授業づくりにおいて、次の一つ又は複数を取り上げた研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導事項等を基にした、当該単元で育成を目指す資質・能力の明確化 ・単元の展開部の指導の在り方の工夫改善 ・本や資料を目的に応じて選んで読む能力を育む指導の在り方の工夫改善 ・本時において目的意識や必然性をもって交流するための指導の在り方の工夫改善 <p>(イ)言語活動の充実を図った授業づくりを通じた学習評価の工夫改善</p> <p>②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当）</p> <p>○全国学力・学習状況調査の活用を図る指導方法等の研究（下記の(ア)～(イ)から一つ又は</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>複数を選択すること)</p> <p>(ア) 全国学力・学習状況調査の調査問題そのものや授業アイディア例を実際の授業に位置付けた単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究</p> <p>(イ) B問題に係る課題を基にし、習得したことを活用して思考力や判断力、表現力を高める単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究(例:記述力)</p> |
| 社会 | <p>◇下記の内容に関わる教材開発等の研究(ア)～(ウ)より一つ又は複数を選択すること)</p> <p>(ア) 第3学年、第4学年の内容(地域の歴史、地域の災害)に関わって、教材開発、資料作成、学習展開等を含めた小単元計画を研究する。</p> <p>(イ) 第5学年の内容(産業の情報化に関わる内容)に関わって、教材開発、資料作成、学習展開等を含めた小単元計画を研究する。</p> <p>(ウ) 第6学年の歴史学習において、当時の世界との関わりに目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えるための資料提示の工夫を研究する。</p> |
| 算数 | <p>○学習指導要領の実施状況や全国学力・学習状況調査の結果から、児童の理解に課題があり、指導の工夫改善が求められる下記の内容についての指導方法等の研究(下記のア)～(オ)から一つ又は複数を選択すること)</p> <p>(ア) 「筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりする」ことができるための、児童の実態に合わせた効果的な指導方法とその評価方法の研究(「数学的な考え方」を授業中に適切に評価するための、適用問題、評価問題、活用問題等の開発など)</p> <p>(イ) 学習意欲の向上や学習内容の確実な定着を図るため、「見通しを立てたり、振り返ったりする」などの効果的な指導方法等の研究</p> <p>(ウ) 各学年において、分数の意味の理解を深めていくための効果的な指導方法等の研究</p> <p>(エ) 乗法や除法の意味を理解するための系統的な指導計画及び効果的な指導方法等の研究</p> <p>(オ) 割合(単位量当たりの大きさ・百分率)の意味を理解するための系統的な指導計画及び効果的な指導計画等の工夫改善についての研究</p> |
| 理科 | <p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①教育課程全体に係る課題(下記のア)又は(イ)から一つ選択すること)</p> <p>(ア) 問題解決の力を育てる指導法等の研究</p> <p>(イ) 実生活などとの関連を図る指導法等の研究</p> <p>②全国学力・学習状況調査等に係る課題(下記のア)又は(イ)から一つ選択すること)</p> <p>(ア) 観察・実験の結果から考察し結論を導くための効果的な指導方法の研究</p> <p>(イ) 観察・実験の計画及び実施における効果的な指導方法の研究</p> |
| 生活 | <p>○思考を促す学習活動や気付きを表出する表現活動を行い、気付きの質を高め児童の意欲の向上につながる主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画及び指導方法の研究</p> |
| 音楽 | <p>○思いや意図をもって表現したり、音楽を全体にわたって味わって聴いたりする主体的、創造的な学習を実現する指導方法等の研究(下記のア)又は(イ)に該当するもの)</p> <p>(ア) 「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」の指導と評価の充実に関わるもの</p> <p>(イ) 「我が国の音楽」を学習素材として扱うもの</p> |

| | |
|----------------------|--|
| 図 画 工 作 | ○表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質能力を明確にした指導計画及び指導方法と学習評価の実践研究 |
| 家 庭 | <p>◇下記の①②のいずれか1つ又は両方に取り組むものとする</p> <p>① 各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究</p> <p>② 学習指導要領実施状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究</p> |
| 体 育 | <p>◇運動領域と保健領域の両方に取り組むものとする</p> <p>【運動領域】</p> <p>○2年ごとのまとめりとして示されたA～Fの各領域の指導内容の(3)「思考・判断」に関する内容について、それまでに身に付けた知識や技能を基に思考・判断し、児童自らが課題解決を図るための効果的な指導と評価の在り方についての研究（A～Fの各領域のうち、いずれかの領域を選定し、6年間の発達を踏まえた研究を進めること。その際、選定した領域について2年間ごとの指導計画を立てること）</p> <p>【保健領域】</p> <p>○身近な生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指して、「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)～(エ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)第3学年の「(1)毎日の生活と健康」</p> <p>(イ)第4学年の「(2)育ちゆく体とわたし」</p> <p>(ウ)第5学年の「(1)心の健康」</p> <p>(エ)第6学年の「(3)病気の予防」</p> |
| 道 徳 | <p>○学習指導要領において、各教科等においても特質に応じた適切な道德教育を行うこと、道德教育の全体計画に各教科等で行う道德教育について指導の内容及び時期を示すことになったことを踏まえ、自校の道德教育の重点目標に基づく各教科等の特質を生かした道德教育、それらの要となる道德の時間の指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)～(エ)を全て踏まえた具体的な研究課題を設定すること）</p> <p>(ア)学校の道德教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫</p> <p>(イ)学校の教育活動全体を通じて行う道德教育におけるいじめ問題への対応</p> <p>(ウ)各教科等の特質を生かした道德教育の工夫</p> <p>(エ)各教科等の道德教育の要となる道德の時間の指導の工夫</p> <p>(オ)「私たちの道德」の効果的な活用の工夫</p> |
| 外国語活動 | <p>◇以下の①又は②のいずれかを一つ選択すること</p> <p>①子供が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための指導方法とその評価方法の研究</p> <p>②中学校へのスムーズな接続を意識した学習内容と指導方法の研究</p> |
| 総 合 的 な 学 習 の 時 間 | ○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）が主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画及び指導方法等の研究 |

| | |
|---------|---|
| 特 別 活 動 | <p>○学習指導要領に「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動，人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。」と示されていること，また，国立教育政策研究所において特別活動指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」が作成・全国配布されたことを踏まえ，特別活動で育てたい思考力，判断力，実践力（表現力と実行力）を育成するための指導方法やいじめの等の未然防止につながる指導方法などの研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫 ② 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫 ③ いじめの未然防止等につながる集団(活動)育成のための指導の工夫 |
|---------|---|

【中学校】

学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による生徒の確実な理解、能力の定着が求められている。
 - また、学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
 - 平成28年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成28年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成29年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

| | |
|----|---|
| 国語 | <p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①教育課程全体に係る課題（教育課程調査官担当）</p> <p>○下記の(ア)(イ)のいずれか一つ又は両方に取り組むものとする</p> <p>(ア)「読むこと」の領域において、言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組みながら思考・判断・表現する単元の研究</p> <p>(イ)基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」の能力の育成を明確にした学習評価の工夫</p> <p>②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当）</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究</p> |
| 社会 | <p>○課題を追究したり解決したりする活動を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究</p> |

| | | |
|---|---|--|
| 数 | 学 | <p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①生徒の数学的活動への取組を促し、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための具体的な授業の在り方と評価方法等の実践研究（研究の中で、指導内容のつながりを意識した効果的な単元計画や評価計画の開発についても取り扱うこと）</p> <p>②全国学力・学習状況調査の記述式問題等の分析に基づき、知識・技能などを実生活の様々な場面で活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力を育成するための指導方法等の研究</p> |
| 理 | 科 | <p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①生徒の主体的な学びを促し、科学的な思考力・表現力を高める研究</p> <p>科学的な思考力・表現力を高めるために、「問題を見いだし観察・実験を計画する学習活動、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動」等の学習活動を取り入れた単元を構成して、生徒を主体的にする教材の開発や単元の構成に工夫を加えることの効果について研究する。</p> <p>その際、例えば、「十分な観察・実験の時間や探究する時間の設定」「ものづくりの推進」「継続的な観察などの充実」「博物館や科学学習センターなどとの連携」などと関連付けて取り組むことも考えられる。</p> <p>②全国学力・学習状況調査等に係る課題（下記の(ア)又は(イ)から一つ選択すること）</p> <p>(ア) 自然の事物・現象について観察・実験を行って科学的に探究する際に、「生徒が見いだした問題を基に設定した課題を解決するための観察・実験を計画する」、「結果などを分析・解釈する」、「観察・実験の結果や習得した知識・技能などの根拠に基づいて、協働的に自らの考えや他者の考えに対して、多面的、総合的に思考して検討・改善したりする」などの指導の充実に関する研究。</p> <p>(イ) 自然の事物・現象について観察・実験を行って科学的に探究する際に、習得と活用と探究のそれぞれの学習場面の適切な設計に関する研究。例えば、単元や題材のまとまりの中で、知識・技能を習得し、思考力・表現力が高まるように、生徒が「必要性を認識し目的意識を持って知識・技能を習得する場面」と「思考・表現する場面」を適切に設定することが考えられる。</p> |
| 音 | 楽 | <p>○音楽的な感受を支えとして、「A 表現」領域と「B 鑑賞」領域の関連を図り、音楽の特性に即した思考力・判断力・表現力を育成する主体的、創造的な学習を実現する指導方法等の研究（下記の(ア)、(イ)のいずれかに該当するもの）</p> <p>(ア)「音楽表現の創意工夫」又は「鑑賞の能力」の指導と評価の充実に関わるもの</p> <p>(イ) 音楽文化についての理解を深めることに関わるもの</p> |
| 美 | 術 | <p>○「A 表現」及び「B 鑑賞」の相互の関連を図り、美術科において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした指導方法等の工夫改善についての研究（下記の(ア)(イ)から一つ又は両方を選択すること）</p> <p>(ア)造形的な視点を豊かに持ち、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成する指導方法等と学習評価の研究</p> <p>(イ)造形的な視点を豊かに持ち、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文</p> |

| | |
|-----------|--|
| | 化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成する指導方法等と学習評価の研究 |
| 保 健 体 育 | <p>◇体育分野と保健分野の両方に取り組むものとする</p> <p>【体育分野】</p> <p>○今回の中学校学習指導要領保健体育の改訂の重点である指導内容の体系化及び指導内容の明確化（中学校学習指導要領解説保健体育編 p.8～）を踏まえ、下記の①②についての研究（下記の①②のいずれかを選択し、各校で領域を設定すること）</p> <p>①A～Hの各領域の指導内容の(1)技能、(2)態度、(3)知識、思考・判断の学習をバランスよく行う指導計画や指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p>②運動を合理的に実践するため、運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究</p> <p>【保健分野】</p> <p>○個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指して、以下の単元における「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の「(1)心身の機能の発達と心の健康」 ・第2学年の「(3)傷害の防止」 ・第3学年の「(4)健康な生活と疾病の予防」 |
| 技 術 ・ 家 庭 | <p>◆技術分野と家庭分野の両方又はいずれかの分野に取り組むものとする</p> <p>【技術分野】</p> <p>◇下記の①～③のいずれか一つに取り組むものとする</p> <p>①技術分野が目指す「適切な技術の発達を主体的に支えることのできる資質・能力」や「技術革新を牽引する力の素地となる資質・能力」の育成を、3年間を見通して計画的に育成するための方策と、育成状況の評価の在り方について</p> <p>②多様で高度な技術（technology）が身近な生活で利用されている中で、今後の社会で活用できる技術（technology）に関する重要な概念の明確化と、その習得を図る指導と評価の在り方について</p> <p>③E S D、知的財産権教育、防災・安全教育、道德教育等、今後技術分野で特に重視すべき教育の、技術分野の特質を生かした指導と評価の在り方について （なお、重視すべき教育については、学校の実態に応じて例示以外を取り上げてもよい）</p> <p>【家庭分野】</p> <p>◇下記の①②の両方に取り組むものとする。</p> <p>①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究</p> <p>②「生活の課題と実践」に関する指導方法及び評価の研究</p> |
| 外 国 語 | ○教科書等の本文で取り上げられている題材や言語材料を活用し、生徒が自分の考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心に授業を展開するための指導と評価に関する研究 |

| | |
|-----------|---|
| 道徳 | <p>○学習指導要領において、各教科等においても特質に応じた適切な道徳教育を行うこと、道徳教育の全体計画に各教科等で行う道徳教育について指導の内容及び時期を示すことになったことを踏まえ、自校の道徳教育の重点目標に基づく各教科等の特質を生かした道徳教育、それらの要となる道徳の時間の指導方法等の研究</p> <p>(下記の(ア)～(エ)を全て踏まえた具体的な研究課題を設定すること)</p> <p>(ア)学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫</p> <p>(イ)学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるいじめ問題への対応</p> <p>(ウ)各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫</p> <p>(エ)各教科等の道徳教育の要となる道徳の時間の指導の工夫</p> <p>(オ)「私たちの道徳」の効果的な活用の工夫</p> |
| 総合的な学習の時間 | <p>○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）が主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画及び指導方法等の研究</p> |
| 特別活動 | <p>① 「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動の充実」が現行学習指導要領に明示されていることを踏まえ、思考力・判断力・実践力（表現力と実行力）を育む学級活動における話し合い活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> <p>② 共生社会の担い手として求められる社会に参画する態度や自治的能力を育む生徒会活動又は学校行事における集団活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> |

公募課題3 学校全体で取り組む研究課題

(1) 伝統文化教育を地域とともに推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：小学校，中学校，高等学校，特別支援学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
 - 児童生徒に伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付けさせるため，各教科等における伝統的な言語文化，歌唱及び和楽器，行事食・郷土食，産業，和服の基本的な着装その他の伝統的な事項に係る指導について，地域の関係者や専門家からの協力による指導効果の向上，学校と地域とのつながりの深化を図る実践研究を行う。
 - 研究の推進に当たっては，地域の関係者から児童生徒が指導を受けたり，学習の成果を地域の行事等で披露したりするなど，本研究での取組が地域の中でどのように展開され，また，それにより学校と地域との関係がどのように深まっていったかをあきらかにするとともに，伝統文化教育に係る教育課程の編成についての地域との協働についても明らかにするよう留意して実践研究を行うこと。

(2) へき地の学校における教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：へき地の小学校又は中学校（小中併設校の場合，小・中学校として応募することも可能）
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等
 - 全国的な教育水準の維持向上，学習指導要領で掲げる指導内容等を効果的に指導するための参考となるよう，へき地学校として指定される学校において，次のものに資する実践研究を行う。（①～④の一つ又は二つ以上に取り組む。）
 - ①全国の他のへき地の学校等で共通する課題の改善
 - ②複式学級における指導と評価の工夫改善（特に，学習指導要領において複数学年にわたる指導内容を示されている学年でのルーブリックを活用とした指導と評価）
 - ③少人数学級等，児童生徒の学級集団の状況等を踏まえた課題の改善
 - ④へき地の学校ならではの教育資源を生かした特色ある教育活動の展開のための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善

(3) 社会の中で活用される論理的思考やそれらを表現する力を学校全体で育成するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

◆ 対象校種：小学校，中学校，高等学校

◆ 研究期間：2年間

◆ 実践研究の目的，内容等

- グローバル社会や高度情報化社会をはじめとする様々な社会状況の中で活躍する上で必要な力の育成を目指し，各教科等の目標，指導を踏まえつつ，教科横断的な視点から社会生活の中で活用される論理的思考や，それらを表現する力を育成する際に，どのような目標設定とするのか，そのためには教科等の間でどのような連携等が行えるのか，どのような教育課程を編成するのか，目標実現状況の評価をどのように行うべきか等について実践研究を行う。
- 例えば，各教科等が協力してルーブリックを作成しそれに基づき指導と評価を行うなど，各教科等で協力して目標を設定し，一体となって目標の実現に向け取り組むこと。
- 新設の特別な教科を設けず，学習指導要領に基づく教科等，授業時間数，指導内容による実践研究を行うこと。
- 本研究では，全校体制で，学期ごとに教育活動の効果を点検し，次学期の取組の改善を検討すること。また，その点検に当たっては，児童生徒への質問紙調査を行うこと。

(4) ESDを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

◆ 対象校種：小学校，中学校，高等学校

◆ 研究期間：2年間

◆ 実践研究の目的，内容等

- ESD（Education for Sustainable Development）は，環境的視点，経済的視点，社会・文化的視点から，より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらすことができる開発や発展を目指した教育であり，持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目的とする。
- 実践研究に取り組む際には，特に下記の内容について，指導方法等の実践研究を行うこと。
 - ・ ESDの理念に沿った学習内容について，学習指導要領を踏まえたESDの視点に立った体系的な指導と評価の推進
 - ・ 教科等の関連付けを図った教育課程の編成及び他の教科等における学習状況を踏まえた教科等の指導方法等の工夫改善
 - ・ ESDの導入により，学校全体として児童生徒にどのような概念や資質・能力が身に付いたのか，どのように教員や学校が変わったのかなど，その成果と課題の検証
- 本研究では，全校体制で，学期ごとに教育活動の効果を点検し，次学期の取組の改善を検討すること。また，その点検に当たっては，児童生徒への質問紙調査を行うこと。

- 研究に際しては、以下の報告書等も参照すること。
 - ・ ESDリーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」
(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf]
 - ・ ESDリーフレット「持続可能な開発のための教育（ESD）はこれからの世界の合
い言葉 みんなで取り組むESD！」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
[http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/pdf/ESD_leaflet.pdf]

(5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：幼稚園（幼保連携型認定こども園，保育所を含む。以下同じ。），小学校，
中学校，高等学校
 - ◆ 研究期間：2年間
 - ◆ 実践研究の目的，内容等
 - 各校種間の円滑な接続を図るため，校種間の接続を見通した教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校等における教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に資する。
 - 地域の実態や各学校段階の特徴を踏まえ，学びの連続性が確保される教育課程の編成，指導方法等の工夫改善を図ること。
 - 校種間連携のねらいや具体的な実施計画，取組状況（成果と課題）をあきらかにすること。
 - 研究を進める際には，都道府県教育委員会等との連携・協力の下で行うこと。また，委嘱を受けた都道府県教育委員会等は，実践研究を円滑に進めるために，学識経験者，PTA関係者，及び研究の協力校教職員等からなる連携教育研究会議を設けるものとする。
 - 各校種間の連携・接続を図るため，例えば次のような視点で実践研究を行うことが考えられる。
- 【幼稚園と小学校との連携の場合】
- ・ 小学校教育を見通した幼児期における指導方法及び幼児期の学びの状況を踏まえた小学校における学習指導の在り方
 - ・ 幼児の状況の申し送りや児童の状況のフィードバック等の工夫を図るなど，幼児・児童理解の共有を踏まえた指導方法等の工夫改善
- 【小学校と中学校の連携の場合】
- ・ 小中学校における学習内容の系統性を重視した教科指導等の工夫改善
 - ・ 小中学校で共通する学習活動や学習方法に視点を当てた学習指導の展開
 - ・ 中学校段階においても学習意欲を維持・向上させるための小学校及び中学校での学習指導の在り方
 - ・ 中学校でのつまづきを予防・解消するための小学校及び中学校での教科指導等の在り方
- 【中学校と高等学校の連携の場合】
- ・ 社会参画への意識を高める指導の工夫（主権者教育など）
 - ・ 問題発見・解決のある学びの過程に視点を当てた学習指導の在り方

- ・高等学校での学び直しのための指導の充実とその結果を踏まえた中学校での指導の改善
- ・キャリア教育の成果を中学校と高等学校で共有・接続するための取組

○ なお、幼稚園と小学校との連携・接続を図る場合は、以下の資料等を参考にすることも考えられる。

- ・「スタートカリキュラムスタートセット」（平成 27 年 1 月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf?time=1446205479808]

- ・「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成 22 年 1 月，幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）

[http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf]

- ・「幼児期から児童期への教育」（平成 17 年 2 月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/youji_jidou.htm]

- ・「環境教育指導資料（幼稚園・小学校編）」（平成 26 年 11 月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/kankyo_k_n_eb.pdf?time=1446640]